

# ピースボート戦後 80年特別プロジェクト 「TIME FOR PEACE」



**PEACE  
BOAT**

2025.04.09  
メディア向けブリーフィング

2025年、世界は第二次世界大戦の終結から80年

広島・長崎への原爆投下からの80年

国連発足から80年

それでも、戦禍は今も続いています

**「TIME FOR PEACE(今こそ平和を)」**

**PEACE  
BOAT**

**「過去の戦争を見つめ、未来の平和を創る」  
戦争被害者の声に改めて耳を傾ける**

世界各地の戦争体験者、紛争当事者とともに  
世界各地の紛争予防・平和構築の実践家とともに

**分断ではなく共存を、戦争ではなく平和を**

# ピースボート 地球一周の船旅 Voyage120

2025.4.23(水)～2025.8.7(木)[横浜発着107日間]



# ノーベル賞洋上特別展 “A Message to Humanity” NOBEL PEACE CENTER ONBOARD

ノーベル平和センターと提携協定を結び、船内の常設スペースで日本被団協の活動を紹介するノーベル平和賞企画展 “A Message to Humanity” の洋上特別展を行います。



# ノーベル賞洋上特別展 “A Message to Humanity” NOBEL PEACE CENTER ONBOARD

ノーベル平和センターのスタッフが、展示の準備のために 4月18日から23日にかけて来日します。個別インタビューなどのご希望がありましたらアレンジします。



**Kim Reksten Grønneberg**  
Director Communication  
and Marketing



**Asle Olsen**  
Curator

# ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World: Peace Boat Hibakusha Project



**伊藤 正雄(いとう まさお)**

広島被爆 1941年1月31生まれ 被爆当時4歳

爆心地から3.5km地点の自宅前の道路で三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。爆風により吹き飛ばされるも軽傷ですみ、逃げ込んだ防空壕で黒い雨に遭う。



**倉守 照美(くらもり てるみ)**

長崎被爆 1944年1月8日生まれ 被爆当時1歳

爆心地から5.8kmの地点で被爆。母親と幼い兄姉と一緒に防空壕へ避難していたため無事。被爆当時1歳。

**PEACE  
BOAT**

# ヒバクシャ地球一周 証言の航海

## Global Voyage for a Nuclear-Free World: Peace Boat Hibakusha Project



乗船区間: 横浜～シンガポール

**福島 富子(ふくしま とみこ)**

長崎被爆 1945年1月21日生まれ 被爆当時生後6か月半  
神奈川県原爆被災者の会(日本被団協の神奈川県組織) 副会長



乗船区間: ベルゲン～ニューヨーク

**Mary Dickson(メアリー・ディクソン)**

作家・脚本家・ユタ州ソルトレイクシティ出身の風下住民、甲状腺がんサバイバー。核実験被害者への援助を国際的に訴える活動家。



乗船区間: ニューヨーク～プンタレナス

**渡辺 淳子(わたなべ・じゅんこ)**

広島被爆 1942年11月28日生まれ 被爆当時2歳  
在ブラジル被爆者  
2024年12月、日本被団協代表団の一人としてノーベル平和賞授賞式に出席



# ヒバクシャ地球一周 証言の航海

## Global Voyage for a Nuclear-Free World: Peace Boat Hibakusha Project

### 寄港地や訪問先での活動

- 各地の平和活動団体と連帯し核兵器禁止条約への参加を呼びかけ
- 被爆者自らの実体験に基づく被爆証言を実施

### 船内での活動

- 世代を超えた証言の「継承」
- 世界の核問題への理解を深める  
世界のウラン採掘、核実験、原発事故など
- 戦争や武力紛争の被害者らとの交流を通して学び、議論
- 核兵器が使われないための具体的な方法を探る  
戦争や核使用に繋がる偏見や差別、暴力の連鎖を断ち切るなど

# ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World: Peace Boat Hibakusha Project

プロジェクト概要



プロジェクト参加者略歴



## アジア区間（横浜～シンガポール）

- 平和の文化を築く
- 東アジアの平和を創る
- 国境を越えた教育と交流

# NPO法人 PEACE DAYとの連携 PEACE DAY MESSENGER

国連が定める「国際平和の日」(9月21日)に平和への意識を醸成する活動をする  
NPO法人PEACE DAYと連携協定を結び、PEACE DAY MESSENGERが地球一周をします。



NPO法人PEACE DAY代表理事  
株式会社LIFULL代表取締役会長  
井上高志(深圳～ハロン乗船)

LIFULLグループとして社会課題を解決する様々な領域の事業を展開しつつ、NPO法人PEACE DAYでは積極的平和(Positive peace)の状況が広く世界で実現することを目指して活動。



PEACE DAY MESSENGER  
山本乃々佳(一周を通して乗船)

環境活動と若者の政治参画に取り組む社会活動家の9歳。地球環境ユースサミットに日本代表として参加した経験がある他、高校生プレゼンテーション全国大会最優秀賞&国際学部賞受賞。



# 東北アジア平和構築インスティテュート

## Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute / NARPI

東北アジアのNGO・市民団体が企画運営する、学生や若手活動家を対象とした平和構築の実践プログラム。今回はNARPIの中心メンバーが乗船します(深圳～シンガポール)。



PEACE  
BOAT

# United World College Southeast Asia / UWC-SEA Initiative for Peace (IfP)

シンガポールにあるインターナショナルスクール UWC-SEA。今回は普段から課外活動として平和活動に取り組む国際色ゆたかな高校生がハロンからシンガポールまで乗船します。



**PEACE  
BOAT**

## ヨーロッパ区間(ポルト～ベルゲン)

- 紛争予防の実践
- 戦時性暴力の被害者と共に
  - 化学兵器の被害を伝える
  - 核兵器禁止から廃絶へ

# 武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ

## Global Partnership for the Prevention of Armed Conflicts / GPPAC

設立20周年を迎える国際 NGO ネットワーク GPPAC で、人間の安全保障やジェンダーの専門家としてトレーニングや実践者のための能力向上・育成などを担当するグループから約 10 名が乗船します (ポルト～ゼーブルージュ)。メンバーの出身はパレスチナ、ヨルダン、メキシコ、アメリカ、インド、スリランカ、セルビア、キルギスタン、ジンバブエなど。





# 戦時性暴力の被害者ネットワーク

## GLOBAL NETWORK OF VICTIMS AND SURVIVORS TO END WARTIME SEXUAL VIOLENCE / SEMA

2018年ノーベル平和賞受賞者デニ・ムクウェゲ医師の財団は、世界中の戦時性暴力の被害者とサバイバーのネットワーク(SEMA※)と連携し、啓もう活動を行っています。

※SEMAはスワヒリ語で「声をあげる」という意味



### Iryna Dovhan

ウクライナ東部ドネツィク州出身。2014年、ロシアの武装集団に拉致され、5日間にわたって監禁された。現在はSEMA Ukraineのリーダーとして、戦時性暴力を終わらせるための活動に取り組む。

今回はムクウェゲ財団のスタッフと共に乗船予定(ポルト～ハンブルグ)。

**PEACE  
BOAT**

# テヘラン平和博物館

## TEHERAN PEACE MUSEUM



### Zmnako Muhammad Ahmad

1988年にイラクの旧フセイン政権が、イラク北東部クルド人自治区ハラブジャでおこなった大規模化学兵器攻撃のサバイバー。当時生後3か月。家族を失い(※)、孤児となり、養子としてイランで育つ。現在は化学兵器使用に反対する活動家としてテヘラン博物館の活動に携わる。※のちに実の母親は生きていたことがわかる。

今回はテヘラン平和博物館の若手ボランティア3名と共に乗船予定(ゼーブルージュ～ベルゲン)。

# 核兵器廃絶国際キャンペーン

## International Campaign to Abolish Nuclear Weapons / ICAN

核兵器禁止条約の成立に尽力しその普遍化に取り組む ICAN(2017年ノーベル平和賞受賞)のメリッサ・パーク事務局長をはじめ国際事務局のスタッフ一同がベルゲン〜レイキャビク間で乗船し、国際スタッフ会議を行います。2026年の核兵器禁止条約第1回再検討会議に向けた活動方針を話し合う他、ピースボートに乗船中の被爆者や参加者と交流し、ベルゲンとレイキャビクでは、核軍縮促進を訴えるアクションを行います。



## アメリカ区間(ニューヨーク～横浜)

- 記憶の継承と次世代へのバトン
- ユースとともにアクションを起こす
  - SDGsと平和
  - 国連と市民社会

# 被爆バイオリン A-BOMBED VIOLIN

ロシア革命から逃れて日本に亡命し、広島女学院で音楽教師をしていたセルゲイ・パルチコフさん。広島女学院から貸与指定を受け、パルチコフさんと共に広島で被爆したバイオリンをお借りします。ベルゲン～ニューヨーク間で船に載せ、音楽と平和をテーマに様々な船上企画を行います。パルチコフさんのお孫さんも同区間で乗船予定です。



# 国連持続可能な開発のための海洋科学の 10年 Youth for the SDGs

2021年から2030年が「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10年」であることを受け、ピースボートは海洋問題への取り組みに力を入れています。その一環として、海洋問題の分野で活動実績のあるユースがモンテゴベイからマンサニージョの区間で乗船します。



# 大西洋・太平洋ユースプログラム

レイキャビクからニューヨークからの大西洋区間、またバンクーバーから横浜の太平洋区間でユースプログラムを計画中です。社会課題に取り組むユースがつながり、アクションを起こすためのプラットフォームを提供します。



**PEACE  
BOAT**

# 平和を構想し、実践する



**川崎 哲**

ピースボート共同代表、ICAN国際運営委員兼会長。平和構想研究会代表。著書に『核兵器 禁止から廃絶へ』、共編著に『戦争ではなく平和の準備を』など。立教大学兼任講師、日本平和学会理事。



**ヤスナ・バスティッチ**

ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボ生まれ。1994年に戦争難民として逃れ、以来スイスのチューリッヒ在住。ピースボートスタッフの傍らジャーナリストとして活動続ける。



**ショーナ・ケイ・リチャーズ**

駐日ジャマイカ大使。1994年外務貿易省入省、米国、南アフリカ、国連代表部での勤務、二国間関係局長等を歴任し2020年から現職。2022年より、国連軍縮諮問委員会の委員も務める。



## 寄港地での活動(予定)

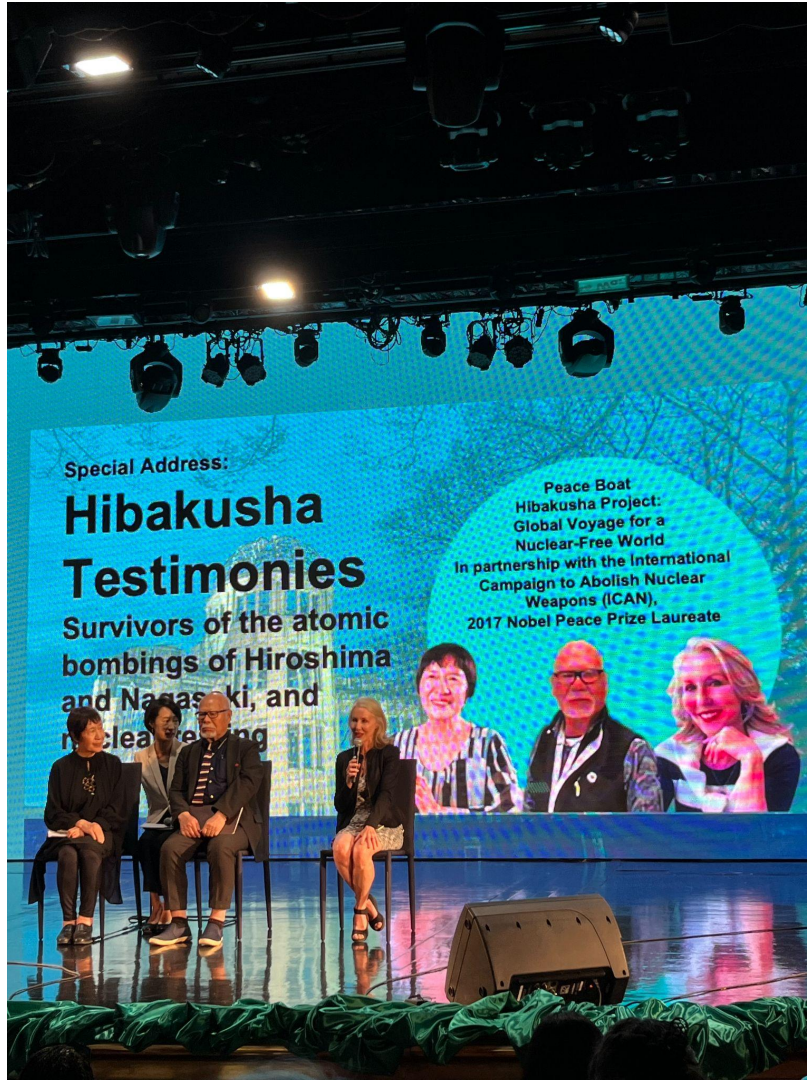
以下の寄港地では被爆者証言を予定しています

- アジア: 深圳、ハロン、シンガポール
  - アフリカ: ケープタウン
- ヨーロッパ: ハンブルク、ベルゲン、レイキャビク
  - 北アメリカ: ニューヨーク、バンクーバー
- ラ米: モンテゴベイ、プンタレナス、マンサニージョ



## レイキャビク(アイスランド)

1986年に核軍縮に関する米ソ首脳会談が行われたホフディ・ハウスを訪問予定



## ニューヨーク(米国)

国連関係者や各国政府代表団を招待し、「平和と軍縮」をテーマに船内イベントを開催予定

**PEACE  
BOAT**



### プンタレナス(コスタリカ)

国連平和大学との協力のもと、平和外交や軍縮、先住民族の権利などをテーマとしたイベントを開催予定

# ノーベル平和賞洋上特別展

## オープニングセレモニー

4月22日(火)13:00-14:30

パシフィック・ワールド号内

(停泊港:横浜港大さん橋国際客船ターミナル)

参加登録が必ず必要です。4月17日(木)17:00までに必ずお申し込みください。



**PEACE  
BOAT**

# ヒバクシャ地球一周 証言の航海 非核特使 委嘱式

4月22日(火)16:00-16:30

外務省



外務省担当者から、参加被爆者2名に  
委嘱状を手渡します。  
その様子、事後インタビューも可能です。

4月12日(土)17:00までに

橋本舞 ([m-hashimoto@peaceboat.gr.jp](mailto:m-hashimoto@peaceboat.gr.jp)) までメール  
でお申し込みください。

**PEACE  
BOAT**

# ピースボート地球一周の船旅 Voyage120 横浜出航

4月23日(水)

9:30-10:30 出航記念記者会見

横浜港大さん橋国際客船ターミナル「アスカラウンジ」で行います。事前登録は不要ですが、取材予定のある方はご連絡いただくと助かります([s-hatakeyama@peaceboat.gr.jp](mailto:s-hatakeyama@peaceboat.gr.jp) / 07085772576)。

11:30-12:00 出航式

横浜港大さん橋国際客船ターミナルの屋上広場から出航式の様子を取材いただけます。駐日ノルウェー大使が参加・発言予定です。

**PEACE  
BOAT**

# 帰港後

8月7日に横浜港に帰港後、  
8月～9月に各地で報告会を計画中